

二字漢語における 語の透明性の相違

—日本語母語話者と
非漢字系日本語学習者の比較

本多由美子

◆要旨

本稿は二字漢語における語の透明性について日本語母語話者と非漢字系日本語学習者に調査を行い、漢字や漢字語彙の知識の量の違いによって判断の傾向が異なることを示した。本稿で指摘した点は、1. 日本語母語話者のほうが二字漢語を「透明」だと判断する傾向が強く、2. 非漢字系日本語学習者を漢字や漢字語彙のレベルで上下に分けた場合、上位群よりも下位群のほうが語を「不透明」だと判断する傾向が強いことである。一方で、透明性の判断がレベルによって大きく異なる語と、レベルにはかかわらず共通する語があることが確認された。これらの結果から透明性の情報が漢字・漢語教育に活用できる可能性があることを述べた。

◆キーワード

二字漢語の透明性、意味の結びつき、
日本語母語話者、非漢字系日本語学習者、
漢字・漢語教育

◆ABSTRACT

This study shows that Japanese native speakers (NS) and Japanese learners from a non-Kanji background (NNS) tend to judge the transparency of two-character Sino-Japanese words differently depending on their knowledge of, or vocabulary in Kanji. Namely, (1) tend to judge two-character Sino-Japanese words as “transparent” more often than NNS, and (2) among NNS, lower-group learners tend to judge two-character Sino-Japanese words as “non-transparent” more often than upper-group learners. Furthermore, NNS upper-group and lower-group learners judge some words quite differently, while other words are judged similarly. These results suggest that information about transparency could be used in Kanji or Sino-Japanese education.

◆KEY WORDS

transparency of two-character Sino-Japanese words, semantic relationships, Japanese native speaker, Japanese learners from a non-kanji background, kanji or Sino-Japanese education

Differences in Transparency of
Two-Character Sino-Japanese Words
Comparative study of Japanese native speakers and
Japanese learners from a non-kanji background
YUMIKO HONDA

1 はじめに

本稿は漢字2字から成る漢語（以下「二字漢語」とする）における語の透明性について、日本語母語話者と非漢字系日本語学習者の判断の相違、非漢字系日本語学習者のレベルによる判断の相違を明らかにすることを目的とする。二字漢語には、「国外」と「国（くに）」「外（そと）」のように、語と構成漢字の意味の結びつきが明らかである透明な語や「経済」や「精神」のように現在一般的に使われている意味では語と構成漢字が結びつきにくい不透明な語がある。

語の透明性は有縁性という概念で説明される。『言語学大辞典』では、Saussure (1916) (小林訳1940) が述べているように言語記号を構成する2要素、音形式とそれの指示する概念の関係は一般的にまったく恣意的であるが、この恣意性に対し音形式と概念の間に何らかの必然的な関係が認められる場合を「有縁関係（有縁性）」と言うと説明されている。Ullmann (1962) は有縁性^[註1]をもつ語を透明語、もたない語を不透明語と呼んでいる。日本語の現代語における二字漢語について、西尾 (1986) は語の音形式と語の意味の間に構成漢字の意味を介することによって有縁性をとらえ、二字漢語には有縁性が明らかな語や現代語としては分析できない語があり、両者の間には有縁性の程度が様々な語が存在することを指摘している。また鈴木 (1990) は構成漢字の意味が漢語の意味の理解に結びつくことを「意味論的透明性」と呼んでいる。

日本語を学ぶ非漢字系学習者にとって、限られた時間に大量の漢語を学ぶことは負担が大きい。漢語の透明性の情報は、構成漢字と語の意味を関連付けて理解し整理しながら学習する際に活用できるため、学習の負担の軽減に資すると考える。一方で二字漢語には不透明な語がある程度存在し (本多2017)、また母語話者の知識では透明な語であっても、学習者のレベルによっては語と漢字の意味が結びつきにくい語があると予想される。学習者にとって既知の語が不透明であっても当該の語の理解に支障はない。しかし、透明性の判断の傾向を明らかにすることは、学習者が新たな漢語を学ぶ際に構成漢字の字義などの利用できる情報を検討するために重要だと考える。また、母語話者と学習者の判断の相違を明らかにすることは教える内容や方法を考える教師にとっても活用

できる情報になると考える。以下、「母語話者」は日本語母語話者、「学習者」は非漢字系出身の日本語学習者を指す。なお本稿での非漢字系出身者とは中国、台湾、香港、韓国、ベトナムを除く国・地域の出身者を指す。ベトナムについては後述する予備調査の結果、漢語由来のベトナム語の知識が語の透明性の判断に影響を与える可能性があるかと判断し本調査の対象には含めなかった。

2 研究課題

母語話者と学習者による透明性の判断の違いとして、一般的に母語話者のほうが漢字や漢字語彙の知識が多いため、広い知識を活用して語の意味をとらえ、語を「透明」だと判断する傾向が強いことが考えられる。また学習者については日本語のレベルが下位の学習者のほうが既知の語であっても漢字ごとに意味を分析的に判断できず、語を「不透明」だと判断する傾向が強いことが予想される。なお、本稿では、漢字の表語性に注目しているため、本稿において「既知の語」とは「意味を知っている語」、「未知の語」とは「意味を知らない語」を指す。リサーチクエスション（以下「RQ」と略す）は以下の2つを設定する。

- RQ1. 学習者と比較して、母語話者のほうが二字漢語を「透明」であると判断する傾向が強いのか。
- RQ2. 学習者のレベルを上下に分けた場合、上位群よりも下位群のほうが、語を「不透明」であると判断する傾向が強いのか。

3 先行研究

二字漢語や漢字熟語における透明性の量的な調査には母語話者を対象とした尺度評定による調査 (桑原2013, 増田2014) と、辞書の記述をもとに行った調査 (本多2017) がある。漢字2字から成る熟語について桑原 (2013) は語の透明性を調査し、増田 (2014) は構成漢字の意味的関連性を調査している^[註2]。本多 (2017) は二字漢語について辞書に書かれている語義の説明を用いて調査を行い、辞書をもとにした透明性と母語話者による語の透明性の判断 (桑原2013) は結果の

傾向が類似することを示している。これらの調査はいずれも母語話者にとっての透明性を測っている。本多 (2017) は日本語教育の語彙についても考察しているが、学習者による透明性の判断については明らかではない。

4 本稿における二字漢語の透明性

本稿では本多 (2017) にしたがって、「二字漢語において語が透明である」ことは「語と構成漢字の意味が対応して結びつく」ことを指し、「二字漢語における語の透明性」とは語と構成漢字の結びつきの度合いを指すこととする。そして本多 (2017) と同様、宮島 (1968:199-202) を参考に、語と構成漢字の意味の結びつきを1字目の漢字と2字目の漢字で別々に判断し、それらを合わせて語の透明性を「透明」「片透明 (かたとうめい)」「不透明」に3分類する (表1)。

「国外」「経営」という語では「国」「外」「営」はそれぞれ「国(くに)」「外(そと)」「営む」という意味で語の意味と結びつくが、「経営」「精神」の「経」「精」「神」は語の意味と結びつきにくい。「国外」は2字とも語と漢字の意味が結びつくため「透明」に分類され、「経営」は「営」のみ語と漢字の意味が結びつくため「片透明」、「精神」は2字とも語と漢字の意味が結びつきにくい「不透明」に分類される。

表1 二字漢語における語の透明性の3分類 (本多2017をもとに作成)

語と構成漢字の意味の結びつき ^[注3]	二字漢語における語の透明性	例
2字とも、語と漢字が結びつく	透明	国外
どちらか1字のみ、語と漢字が結びつく	片透明 (かたとうめい)	経営
2字とも、語と漢字が結びつきにくい	不透明	精神

5 調査概要と手順

5.1 調査の概要

母語話者と学習者に対し、二字漢語と構成漢字を提示し語と構成漢字の意味

が結びつくか否かを質問した。語は漢字表記のみを提示した。1字目の漢字と2字目の漢字の回答を合わせて二字漢語の透明性を3分類し傾向を把握した。RQ2については「漢字SPOTS0」(以下「SPOT」とする)を実施し学習者を上位群と下位群に分けた^[注4]。また、構成漢字の意味が「結びつく」場合にどのような意味で結びつくかと判断したかについても調査した。学習者への調査では調査対象とする漢語(以下「調査対象語」とする)が既知の語であるか否かを確認するために、語と構成漢字の意味が結びつくか否かを質問する前に語の意味を知っているか否かを問い、意味を書いてもらった。その回答から既知の語であると判断できるものを分析の対象とした。なお、意味を記述する際には日本語以外に媒介語である英語や母語も用いても良いこととし、学習者が判断の内容を日本語で説明できない場合にも回答できるようにした。

5.2 調査対象語の選択

母語話者と学習者を比較する語は「現代日本語書き言葉均衡コーパス」短単位語彙表(以下「BCCWJ短単位語表」)、日本語能力試験出題基準(国際交流基金・日本国際教育協会(2002)、以下「旧出題基準」^[注5])を参考に抽出した二字漢語30語(延べ漢字数60字)を用いた。以下「初級」は3、4級、「中級」は2級、「上級」は1級を指す。また、本稿での漢字の級、語の級は、それぞれ「旧出題基準」の「漢字表」、「語彙表」にしたがった。「BCCWJ短単位語彙表」において語種が漢語で漢字2字から成る語を高頻度順に並べ、上位3,000語のうち初級の漢字で構成される語^[注6]を中心に選択し、一部中級の漢字が含まれる初級の語も含めた。母語話者には30語以外に中級以上の漢字から成る二字漢語5語についても調査した。この5語は学習者と比較する目的の質問ではないため本稿の分析の対象外とする。調査対象語30語については後述する。

5.3 調査協力者

調査協力者は母語話者17名、学習者40名の計57名であった。母語話者は日本語及び中国語の研究や教育に携わっていない30代から60代の社会人であり、学習者は東京および東京近郊の日本語学校、大学、大学院で学ぶ10代後半から30代の非漢字系学習者であった。出身以外にも母語における漢字の影

響を除くため調査の際に母語を確認し、中国語を母語としない学習者を調査協力者とした。また、いずれの学習者も調査時点で漢字を含め初級の項目の学習は終了していた^[註7]。学習者40名の国籍の内訳は、タイ26名、サウジアラビア5名、インドネシア、ウズベキスタン各2名、アゼルバイジャン、イタリア、セルビア、ドイツ、モンゴル各1名である。また日本語能力試験の取得級はN1:11名、N2:8名、N3:8名、N4:4名、取得級なし（受験経験がない者を含む）:9名である。以下、調査協力者の母語話者をNS、学習者をNNSとする。

5.4 質問項目

質問項目の構成を表2に示す。質問1は語が既知か否かを確認するためにNNSのみに問う質問である。質問2は本稿の目的である「語と構成漢字の意味が結びつくか」についての質問であり、NSとNNSの両方が答える質問である。質問3は構成漢字を使って語の意味を書く質問で、質問2が終わったあとNNSのみが答える質問である。これはNSの語構成の判断をみる質問で、NNSとの比較をする目的の質問ではないため本稿の分析には含めない。

表2 質問項目の構成

質問	答え方	回答者と語数
質問1：語が既知であるか（例）「自動」		NNSのみ：30語
Q1. 語を見たことがあるか	選択式（3件法 ^[註8] ）	60語
Q2. 漢字を知っているか	選択式（2件法）	
Q3-1. 語の意味を知っているか	選択式（2件法）	
Q3-2① Q3-1で語の意味を知っていると答えた場合、意味を書く	記述式 日本語、英語、母語	
Q3-2② Q3-1で、語の意味を知らないと答えた場合、漢字から語の意味を考慮することができれば意味を書く		
質問2：語と構成漢字の意味が結びつくか（例）「自動」と【自】		NSとNNS
Q1. 意味がつながるか	選択式（2件法）	NS：30語
Q2. 意味がつながる場合、意味を書く	記述式 NNS：できるだけ日本語、英語、母語	NNS：35語
質問3：構成漢字を使い、語の意味を書く	記述式	NSのみ：28語

質問1のQ1とQ2は、Q3で語の意味を知らない場合に語や漢字が初めて見たものかを確認するための質問である。Q3-2で意味を書く際に用いる言語は日本語、英語などの媒介語、母語のいずれを用いても良いこととした。NNSには質問1で調査対象語30語について答えたあと質問2に答えてもらった。質問2では語と構成漢字の意味がつながる^[註9]と答えた場合、その意味を書いてももらった。NNSが意味を書く際にはできる限り日本語を用いるように指示をし、日本語の回答に自信がない場合は日本語に加えその他の言語を用いた回答を併記することとした。日本語で書けない場合は、日本語以外の言語で答えるように指示をした。提示する語の順序は調査対象語をランダムに並べ、その順に提示するパターンと反対の順に提示するパターンの2種類を用いカウンターバランスをとった。また、NNSには調査の時間内にSPOTを実施した。

5.5 調査方法

予備調査^[註10]を2016年7～8月、本調査を2017年1～3月に実施した。予備調査の結果を受けて本調査は次のように実施した。NSに対しては回答をPCで入力するフォームを作成し、回答方法と回答例を示した説明を合わせて送付して個別にメールでやり取りをした。NNSに対しては質問紙を用い、対面で回答方法を説明した上で調査を行った。質問紙には適宜翻訳を入れた。日本語学校で学ぶNNS28名は2グループに分け、グループごとに1つの教室に集めて調査を実施した。大学生、大学院生のNNS12名は1～3名ずつ集めて実施した。NSもNNSも辞書の使用は不可とした。なお、調査に先立ち筆者の所属機関において研究倫理の審査を受け、承認を得た。

6 調査結果と考察

6.1 NNSの既知語数

はじめにNNS全体の調査結果について概観し、次にRQについて分析、検討をする。NNS40名のうち回答がほぼ白紙の1名と調査を途中でやめた1名を除き38名について述べる。SPOTの結果は得点範囲0～50で平均30.05、中央

値28、標準偏差10.49、最高49、最低10であった。NSとNNSの両方が回答した調査対象語30語と語が既知であった人数を表3に示す。質問1のQ3-1で語の意味を知っていると回答し、かつQ3-2に書いた回答から語の意味を知っていると判断できるものを既知の語とした。下線の語は後述するNSとNNSの比較に用いた語である。

38名の既知語数は平均25.5、中央値27、標準偏差4.27、最大30、最小16であった。漢字のレベルは30語を形成する異なり漢字56字のうち、中級6字(園、化、公、最、定、予)、その他の50字は初級である。語のレベルは、30語のうち、中級9語(歌手、学力、下車、作家、自動、読書、発見、不足、料金)、旧出題基準外の語2語(社員、地上)、その他の19語は初級である。これらの語の透明性の内訳は本多(2017)の分類基準によると、透明15語、片透明8語、不透明7語である^[註11]。NNS全員が既知の語は9語(映画、家族、歌手、公園、写真、先生、毎週、予定、料理)、既知の人数が全体の半分(19名)以下の語は1語(下車)であった。なお、この結果は漢字表記で語のみを提示して意味を質問した結果である。語を読むのではなく耳で聞いた場合や文の中で語が提示された場合には語の意味を答えることができた可能性がある。

表3 調査対象語(30語)各語における既知の人数

人数	語	人数	語	人数	語
38 (全員)	映画、家族、歌手、 <u>公園</u> 、写真、 <u>先生</u> 、 <u>毎週</u> 、 <u>予定</u> 、 <u>料理</u>	34	<u>自動</u>	27	作家
		31	<u>親切</u>	26	不足
37	<u>銀行</u> 、 <u>試験</u> 、 <u>社員</u>	30	<u>研究</u>	25	学力
36	<u>医者</u> 、 <u>最後</u>	29	<u>発見</u> 、 <u>用意</u>	20	地上、読書
35	<u>以下</u> 、 <u>文化</u> 、 <u>料金</u>	28	<u>計画</u> 、 <u>人口</u>	12	下車

6.2 結びつく意味の回答

調査では語と構成漢字の意味がつながると答えた場合、その意味を書いてもらった(表2、質問2参照)。回答には、「構成漢字を用いた結びつき」「構成漢字を用いない結びつき」があり、日本語以外の「媒介語や母語を用いた結びつき」があった。例えば、「公園」と「公」では、以下の回答が見られた。

- ・構成漢字を用いた結びつき 公(おおやけ)、公共、公衆
- ・構成漢字を用いない結びつき 共有、共用、みんなの、だれでも使える
- ・媒介語や母語を用いた結びつき public

また、本稿ではNSおよびNNSについて語の意味に対する構成漢字の意味のとらえ方を見ている。そのため回答には辞書に書かれている漢字の意味と一致しないものも含まれる。例えば「銀行」の「行」の意味は「同業組合。問屋。みせ。」(『現代漢語例解辞典』)であるが、NSとNNSの回答には「行う、お金のことを行うところ」や「行く、お金が行ったり来たりするところ」などの回答があった。これらは間接的な意味の結びつきと考え、本稿では「つながる」に含めた。なお、漢字1字の回答には読み方も書いてもらった。回答の記述内容の意図が不明確なものは調査後に協力者に確認をした。以下、本稿ではNNSの回答で日本語以外の言語で書かれた回答は日本語に訳したものをを用いる。

6.3 透明性の傾向の比較

透明性の傾向を比較するためにRQ1についてはNSとNNSを比較し、RQ2についてはNNSのレベルによる比較を行う。NNSは人によって既知の語が異なる。分析対象者全員が既知である語が多くなるように調整し、NNS26名を分析対象とした。この26名全員が既知である語は20語であった(表3の下線の語、延べ漢字数40字、異なり漢字数39字)。

NNS26名はSPOTの得点によって上位群と下位群、各13名に分けた。これより後の分析ではNNSの上位群13名を「NNS1」、下位群13名を「NNS2」とする。NNS1とNNS2におけるSPOTテストの結果は、NNS1が平均値42.0、中央値42.0、標準偏差3.85、最大値49、最小値36であり、NNS2は平均値27.0、中央値26.0、標準偏差5.13、最大値35、最小値19であった。NNS1とNNS2の平均値についてt検定を行ったところ、5%水準で有意差が見られた^[註12]($t=8.43, df=24, p<0.05$)。SPOTの得点の目安を参考にするとNNS2が初級～中級前半、NNS1が中級後半～上級のレベルである。NSは調査協力者17名のうちランダムに13名を選んだ。なお、NNS26名のうちタイの学生は14名(NNS1:7名、NNS2:7名)で約53%と割合が高い。このことが透明性の分析に影響を与えて

いないことを確認するため、NNS1とNNS2それぞれにおいて、タイの学生とタイ以外の学生間で表2質問2-Q1「語と構成漢字の意味が結びつくか」の回答数を比較した。回答は「結びつく」「結びつかない」の2つである。カイ二乗検定の結果、NNS1、NNS2ともにタイの学生とタイ以外の学生には5%水準で有意差が見られなかったため (NNS1: $\chi^2(1)=0.428, p>.05$, NNS2: $\chi^2(1)=0.537, p>.05$)、本考察ではタイの学生の割合が高いことが分析に影響を与えていないと判断し、両者の回答を合わせて集計した。

まずRQ1は「学習者と比較して、母語話者のほうが二字漢語を「透明」とであると判断する傾向が強いか」である。表2の質問2-Q1の回答を用い、1字目と2字目の漢字と語の意味の結びつきの回答を合わせ、2字とも意味が結びつく場合は「透明」、どちらか1字のみ結びつく場合は「片透明」、2字とも結びつきにくい場合は「不透明」とし (表1参照)、各分類の語数を集計した。表4にNSとNNSの結果と透明性の各分類において人数が多かった語を示す。

カイ二乗検定の結果、語の透明性の3分類 (透明、片透明、不透明) の語数はNSとNNS間では5%水準で有意差があった ($\chi^2(2)=11.85, p<.05$)。残差分析の結果ではNSの「透明」とNNSの「片透明」が有意に多く、NSの「片透明」とNNSの「透明」が有意に少なかった。以上のことからRQ1について、分析対象語の範囲ではNNSと比較して、NSのほうが二字漢語を「透明」だと判断する傾向が強くなることになった。

表4 NSとNNSの判断による語の透明性と例 (延べ語数による集計)

	透明	片透明	不透明	計
NS (n=13)	168 (64.6%) ▲	60 (23.1%) ▽	32 (12.3%)	260 (100.0%)
	【透】自動 (13)、社員 (13)、映画 (13)、最後 (12)、医者 (12)、予定 (12) 【片】料金 (8)、試験 (7)、親切 (7) 【不】料理 (9)、銀行 (7)			
NNS (n=26)	269 (51.7%) ▽	170 (32.7%) ▲	81 (15.6%)	520 (100.0%)
	【透】社員 (24)、自動 (23)、医者 (23)、毎週 (23)、最後 (20) 【片】以下 (19)、銀行 (15)、料金 (15) 【不】研究 (18)、料理 (14)			
計	437 (56.0%)	230 (29.5%)	113 (14.5%)	780 (100.0%)

▲は残差分析の結果有意に多いもの、▽は有意に少ないものを示す ($p<.05$)。語の例の後ろの () 内は人数。【透】: 透明、【片】: 片透明、【不】: 不透明。【片】の語例の下線は結びつく漢字を示す。表5も同じ。

次にRQ2についてNNSのレベルによる差の検討をする。表5にNNS1とNNS2の結果を示す。カイ二乗検定の結果、透明性の3分類 (透明、片透明、不透明) の語数はNNS1とNNS2間において5%水準で有意差があった ($\chi^2(2)=12.73, p<.05$)。残差分析の結果、NNS1の「透明」とNNS2の「不透明」が有意に多く、NNS2の「透明」とNNS1の「不透明」が有意に少なかった。以上のことから分析対象語の範囲では、RQ2「学習者のレベルを上下に分けた場合、下位群のほうが上位群よりも語を「不透明」とであると判断する傾向が強い」ことが明らかになった。このことは漢字や漢字語彙の知識が少ないNNS2のほうが、二字漢語について既知の語でも意味を構成漢字ごとに分析的にとらえられず、2字合わせて1語ととらえる傾向があることを示唆する。

表5 NNS1とNNS2の判断による語の透明性と例 (延べ語数による集計)

	透明	片透明	不透明	計
NNS1 (n=13)	153 (58.8%) ▲	78 (30.0%)	29 (11.2%) ▽	260 (100.0%)
	【透】自動 (13)、毎週 (13)、最後 (12)、社員 (12)、医者 (12) 【片】料金 (10)、銀行 (9)、以下 (8) 【不】研究 (8)、料理 (7)			
NNS2 (n=13)	116 (44.6%) ▽	92 (35.4%)	52 (20.0%) ▲	260 (100.0%)
	【透】社員 (12)、医者 (11)、自動 (10)、毎週 (10) 【片】以下 (11)、歌手 (8)、家族 (7) 【不】研究 (10)、試験 (7)、料理 (7)			
計	269 (51.7%)	170 (32.7%)	81 (15.6%)	520 (100.0%)

また、NS、NNS1、NNS2の3群間には判断に近い語と判断の差が大きい語がある。表4と表5の人数が多かった語を見ると「透明」では「自動」「社員」「医者」が3群に共通している。「自動」は「自ら・自分で動く」、「社員」は「会社/人」、「医者」は「病気を治療する・医学/人」のように、1字ごとの漢字の意味、そして語の意味と漢字の意味との対応の両方が明確であるため、NNS2の学習者にも結びつけやすかったと考えられる。「不透明」で共通する語は「料理」である。「透明」で共通する語ほど人数は多くないが「不透明」についてもレベルに関係なく、語と漢字が結びつきにくいと判断される語があることが示唆される。「料理」の人数はNNS1とNNS2 (各7名) と比べるとNSのほうが多い (9名)。これはNNSのほうが意味の結びつきとして「料」を「材

料」と答えた人数が多かったことによる。「料理」を食べ物を作る過程ととらええたか、できあがった食べ物ととらえたかによる判断の違いと考えられるが、「料」と「理」いずれの漢字もやや抽象的で具体的な物や動作を表さないため結びつきにくかったと考える。なお、「銀行」はNSで「不透明」が7名、NNS1で「片透明」が9名と傾向が異なる。これは「銀行」と「銀」の意味が結びつくと答えた回答がNSで6名、NNS1では12名だったことによる。結びつく際の意味には「お金」「銀（昔のお金）」「銀貨（以前の貨幣）」があった。

一方、判断の差が大きい語についてNSとNNS2の「透明」と「不透明」の判断に7名以上の差がある語を表6に示す。「透明」では「映画」「以下」「研究」の3語、「不透明」では「研究」「試験」の2語である。これらの語は漢字や漢字語彙の知識によって判断が大きく変わる語だと言える。「映画」と「試験」はNSとNNS1の判断が近くNNS1とNNS2間のほうが差が大きい、「研究」と「以下」の判断ではNSとNNS1の差のほうが大きいことは興味深い。漢字の意味と結びつけた分析は今後の課題としたい。

また「不透明」について表4、表5ではNSが32（12.3%）、NNS1が29（11.2%）であり語数がほぼ同じであった。紙幅の関係で表に掲載できなかったが「不透明」の異なり語数はNSが8語、NNS1が11語であった。これよりNSのほうがNNS1よりも少数の語に「不透明」の判断が集まる傾向が示唆される。

表6 NSとNNS2の判断に差がある語（単位：人数）

・透明	語	NS	NNS1	NNS2	・不透明	語	NS	NNS1	NNS2
	映画	13	11 (-2)	5 (-8)		研究	1	8 (+7)	10 (+9)
	以下	9	4 (-5)	2 (-7)		試験	0	1 (+1)	7 (+7)
	研究	9	2 (-7)	2 (-7)					

NNS1とNNS2の（ ）内はNSとの人数の差を示す。

7 まとめと課題

7.1 まとめ

二字漢語と構成漢字の意味の結びつきの判断について、NSとNNSの相違およびNNSのレベルによる相違を以下の2点にまとめる。1点目は、NNSと比較してNSのほうが二字漢語を「透明」だと判断する傾向が強いこと（RQ1）、2点目は、NNSを漢字や漢字語彙の知識によって上下のレベルに分けた場合、上位群（NNS1）よりも下位群（NNS2）のほうが語を「不透明」だと判断する傾向が強いこと（RQ2）である。一方で「透明」「不透明」の判断ではNS、NNS1、NNS2の3群に共通する語も確認された。また、「不透明」の判断ではNNS1よりもNSのほうが少数の語に「不透明」の判断が集まる傾向が示唆された。

本調査の結果から、3群を漢字や漢字語彙の知識の量の違いととらえると透明性の判断の傾向は図1のようになる。透明性の判断は直線的に変化するわけではないが、「透明」と「不透明」は漢字や漢字語彙の知識が多くなると、「透明」が増え「不透明」が減る傾向がある。同時にレベルによらず「透明」「不透明」の判断が共通する語がある。

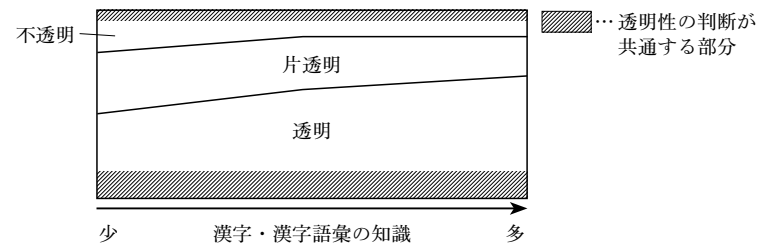


図1 漢字・漢字語彙の知識と透明性の判断の傾向

「透明」の判断が、漢字や漢字語彙の知識を活用して語を分析的にとらえられることだとすれば、レベルが上がると新しく学ぶ漢語においても既存の知識で理解可能な語が増えることが考えられる。本多（2017）は辞書の記述を用い

た調査によって、初級よりも中級以上の二字漢語のほうが透明な語の割合が増えることを示し、レベルが上がり新しく学ぶ漢語数が増えても増加率ほど学習の負担を増やさないことができる可能性があるとしているが、本稿の透明性の判断の結果からも同様の可能性が示唆される。今後、レベルによる判断の違いや語と漢字が結びつく際の意味の分析を通して、学習者の既有的知識で理解が容易な語や、既習の漢字の組み合わせであっても説明が必要な語、漢字語彙の拡張に重要な漢字の意味など、教師が提示する語や学習者に伝える内容を考える際に活用できる情報を示したい。

7.2 課題

本稿の課題を3点挙げる。1点目は本稿では「透明」と「不透明」の考察を行ったが「片透明」の分析が残ったことである。「片透明」も「透明」「不透明」と同様にレベルによって判断に差がある語と、レベルによらず共通する語があるのではないかと考える。2点目は語と構成漢字の意味の結びつき方についてレベルによる相違を明らかにすることである。6.2で述べたように結びつき方には漢字の訓読みをはじめ様々な回答が見られた。一方で漢字によっては回答の種類が少ないものもあった。また、「銀行」と「行」のような間接的な意味の結びつき(6.2参照)が現れやすい語や漢字の特徴についても検討したい。3点目は、本稿の分析は限られた調査対象語と調査協力者によるものであった。これらの語数や人数を増やすことで、透明性の傾向をより明らかにでき、多義の漢字で形成される語の透明性の傾向も明らかにできると考える。

〈一橋大学大学院生〉

謝辞

本研究は「平成28年度公益信託田島毓堂語彙研究基金」による研究成果の一部です。調査協力者の皆様に御礼申し上げます。本研究の実施に際しご指導賜りました山崎誠先生(国立国語研究所)、コメントをくださった査読者の先生方に感謝致します。また本研究には筑波大学留学生センターが開発したTTBJ(漢字SPOTS0)を使用しました。詳細は「<http://ttbj.jp/>」をご参照ください。

注

- [注1] …… 池上訳(1969)では、「有契性」と訳されている。
- [注2] …… 増田(2014)の調査はデータベース構築を目的として行われている。詳細なデータが公開された際には本研究との比較を行いたい。
- [注3] …… 本多(2017)は結果を日本語教育に活用するため、辞書の語義の説明を用いて語の透明性を調査する際、「語と漢字の一般的な意味」を用いている。
- [注4] …… 筑波日本語テスト集(TTBJ)。SPOTテストには科目が複数あり、その中で当該テストは漢字語彙の音声処理能力を測る目的で作られた。回答するには漢字や漢字語彙の知識が必要となること、初級から上級までのレベルを対象としていることから本調査の目的に合っているテストであると判断した。得点解釈の目安は0~15が入門、16~30が初級、31~40が中級、41~50が上級である。
- [注5] …… 日本語能力試験は2010年に改定されたが、改定後の出題基準は公開されていないため、改定前の出題基準を参照した。
- [注6] …… 「旧出題基準」における「3級漢字表」の284字を用いた。二字漢語のうちBCCWJ短単位語表の高頻度順3,000位に含まれる語は約420語(「語彙表」の級は、上級:約90語、中級:約200語、初級:約130語)であった。
- [注7] …… 日本語学校の学習者は中級以上のクラスに所属し初級の漢字学習は終了していた。大学で学ぶ学習者は全員日本語学校で中級以上のクラスで学んだ経験があった。また、大学院で学ぶ学習者は全員N1を取得していた。
- [注8] …… 選択肢は「よく見ます/ときどき見ます/見たことがありません」である。
- [注9] …… 質問にはNNSにもNSにも「つながる」という語を用いた。NNSには「結びつく」という語よりも「つながる」のほうが理解しやすいと判断し本調査において語と漢字の意味が「結びつく」と「つながる」は同じ意味とみなした。
- [注10] …… 調査協力者はNS4名、NNS6名(うちベトナム出身者2名)の計10名であった。調査に用いた漢語は20語で本調査と同じ方法で実施した。
- [注11] …… 30語のうち、本多(2017)に掲載されていた語は6語、24語は本多(2017)にしたがい透明性を調べた。下線は分析に用いた20語である。「透明」(15語) 医者、学力、歌手、下車、公園、最後、試験、自動、社員、地上、読書、発見、不足、毎週、予定、「片透明」(8語) 以下、映画、家族、作家、写真、人口、料金、料理、「不透明」(7語) 銀行、計画、研究、親切、先生、文化、用意
- [注12] …… 統計解析には統計ソフトのR(Version 3.4.0)とjs-STAR(Version 8.1.0j)を利用した。<<http://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star/index.htm>>

参考文献

亀井孝・河野六郎・千野栄一(編)『言語学大辞典 第6巻 術語編』三省堂
桑原陽子(2013)「漢字2字熟語の意味の透明性の調査」『福井大学留学生センター紀要』

- 8, pp.1-13. 福井大学留学生センター
- 鈴木孝夫 (1990) 『日本語と外国語』 岩波書店
- 西尾寅弥 (1986) 「語の有縁性について」 松村明教授古稀記念会 (編) 『松村明教授古稀記念国語研究論集』 pp.669-684. 明治書院
- 本多由美子 (2017) 「二字漢語における語の透明性—コーパスを用いた語と構成漢字の分析」 『計量国語学』 31(1), pp.1-19. 計量国語学会
- 増田尚史 (2014) 『漢字二字熟語間の意味的関連性に関するデータベースの構築』 2011～2013年度科学研究費補助金 (課題番号23530966) 研究成果報告書 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23530966/>
- 宮島達夫 (1968) 『単語指導ノート』 むぎ書房
- de Saussure, F. (1916) *Cours de linguistique générale*. [小林英夫 (訳) (1940) 『ソシュール一般言語学講義』 岩波書店]
- Ullmann, S. (1962) *Semantics: An Introduction to the Science of Meaning*. New York: Barnes & Noble. [池上嘉彦 (訳) (1969) 『言語と意味』 大修館書店]
-

調査資料

- 国際交流基金・日本国際教育協会 (2002) 『日本語能力試験出題基準 [改訂版]』 凡人社
- 国立国語研究所 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」 短単位語彙表 (ver.1.0) http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/freq-list.html (2014年12月21日参照)
- 林大 (監修) (2001) 『現代漢語例解辞典 第二版』 小学館